

厚生文教委員会報告書

令和3年9月16日

備前市議会議長 守井秀龍 殿

委員長 中西裕康

令和3年9月16日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第83号 備前市学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する 条例の制定について	原案可決	なし

<所管事務調査>

- 備前市まるごと大学校について
- まちじゅう図書館について
- 障害者スポーツについて
- 中学校統廃合について

<報告事項>

- 岡山大学大学院教育学研究科との連携協定について（教育振興課）
- 新型コロナウイルスまん延防止重点措置による施設対応について（社会教育課・公民館活動課）
- 大型遊具について（社会教育課）
- スケートボード場整備事業について（社会教育課）
- スポーツ推進計画に対する意見募集の公表について（社会教育課）
- 第17回備前市民スポーツフェスティバルの開催について（社会教育課）
- 備前市文化祭の開催について（公民館活動課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第83号の審査	2
報告事項	4
所管事務調査	20
閉会	29

厚生文教委員会記録

招集日時	令和3年9月16日（木）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午後0時26分	閉会
場所・形態	委員会室	会期中（第4回定例会）の開催		
出席委員	委員長	中西裕康	副委員長	西上徳一
	委員	星野和也		立川 茂
		森本洋子		山本 成
		青山孝樹		藪内 靖
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	守井秀龍		
傍聴者	議員	なし		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
説明員	教育長	松畑熙一	教育部長	石原史章
	教育振興課長	草加浩一	小中一貫教育課長	岩井典昭
	幼児教育課長	竹林幸作	文化振興課長	畑下昌代
	社会教育課長 兼 公民館活動課長	波多野靖成		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、教育部関係の議案審査、所管事務調査を行います。

なお、本日も議案審査が終了しましたら委員会を休憩し、総合計画に関わる分科会を開催いたします。分科会が終了しましたら厚生文教委員会を再開し、報告事項、所管事務調査を行います。

***** 議案第83号の審査 *****

それでは、議案第83号備前市学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する条例の制定についてを議題として審査を行います。

議案第83号について質疑を希望される方の発言を許可いたします。

○星野委員 7月か8月かの委員会で聞いたかもしれないんですが、どうしてこのようなタイミングでの提案になったのでしょうか。

○草加教育振興課長 昨年7月にPTAの説明会を済ませました。令和3年度当初、片上小学校の配膳室整備工事の予算を計上させていただきました。この工事は、この夏休み中の期間中で完成するようなものを予定しておりまして、これを受けて伊里共同調理場からの配膳、配食が可能となるためにこの時期からの実施となっております。

○星野委員 議案の附則ですが、令和3年9月1日から適用するとなっておりますが、これは6月議会で提案すべきものじゃなかったのかなというのが聞きたかったんですが。

○草加教育振興課長 その点については御指摘のとおりです。申し訳ございません。

○星野委員 今回の提案になった理由は何かあるのでしょうか。

○草加教育振興課長 8月の委員会でも御説明をいたしました。6月の議会に提案をすることを失念しておりました。重ねておわび申し上げます。

○西上副委員長 片上小学校が伊里共調に加わることで何食作ることになるのでしょうか。また、キャパはどのくらいなのか教えてください。

○草加教育振興課長 今年9月1日時点の生徒数でございますが、片上小学校の児童数は121名です。この食数を伊里共同調理場で調理することになります。これが加わることによって、生徒数が276名から397名に増えますが、近年の生徒数の減少もありまして、キャパの範囲内と考えております。

○西上副委員長 キャパの範囲内ということでありありがとうございます。

伊里共調も何年かたっていますので、経年劣化も心配されることから修繕なんかをするようなこととか、そういうのはないでしょうか。

○草加教育振興課長 御指摘のとおり、各調理場も建築から相当年数がたっております。今回の補正予算でも伊里共同調理場のIH回転釜を追加で予算要求をさせていただいております。ただ、これ以外にも多数の機器が故障とか不調を聞いておりますので、順次整備をしていく予定で考えております。

○立川委員 先ほど、規模、ボリューム、食数等々は説明があったんですが、調理に係る構成人員なんかはどう変更をされたんでしょうか。

○草加教育振興課長 この件につきまして、8月1日付で調理員、それから栄養士の人事異動を行っており、人員体制も見直しております。

○立川委員 8月1日付の人事異動ということですね。

人数的にはどういう人員を入れ替えたりとかは分かりませんか。例えば現場調理員の調理師さんを3名増やしたよとか、管理栄養士さんは1人増やしたよとか、補助員さんを5名増やしたよとか、そういったところの手配はどうですか。

○草加教育振興課長 御質問の件につきまして、片上小学校での自校調理場の栄養士は1名伊里共同調理場へ異動しております。それから、現場の調理員についてはすいません、現在承知しておりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

○立川委員 人の動きがあるとどうしても御承知のとおり職場環境がかなり、今の例えば調理場の休憩所なんかですと今まで使っていた人数と増えた人数、いろんな面で弊害が考えられるんですが、そういった福利厚生面での手配はされておられますか。それとも、もう得意のそのままいけという感じでしょうか。

○草加教育振興課長 休憩室等の福利厚生についてのお尋ねですけれども、御指摘のとおり人数が増えることによってスペース的なものが圧迫されることは懸念をします。ただ、伊里共同調理場の休憩室に置いていましたテレビやビデオ等、現在使用していない備品につきまして搬出を行って、若干ではありますが、スペースの増加も図っております。

○立川委員 そこら辺大変でしょうけど、しっかり見てあげていただけたらと思います。しっかり給食が滞りなく、事故なくするようにお願いをしときます。

○青山委員 伊里から片上小学校まで運ぶようになると思うんですけど、その運搬についての手配はどうなっていますか。

○草加教育振興課長 配送につきまして1往復確かに増えるんですけども、調理から2時間以内の配食ということは達成できると考えております。

○青山委員 このために人員を増やすとか、そういうふうなことはされているんですか。

○草加教育振興課長 先ほど、立川委員にもお答えをしましたがけれども、8月1日付の人事異動をして調理側の増強は図っております。

○青山委員 これは直に運ぶようになるんですか。それとも、ほかのところ、たしか備前中が入ってはなかったですかね。そういうふうなルートを考えていけば増やす必要はないのか、それと

も直に行かなければいけないので、増やさなければいけないのか、その辺教えてください。

○草加教育振興課長 配送ルート等につきましてすみません、ただいま資料を持ち合わせておりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

○青山委員 お願いします。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

今の2つ質問が出ていますけども、その質問を待って採決しますか。

○立川委員 僕はよろしいです。

○青山委員 予算等に反映するのであれば、ワンルートでいくんか、それともツールートになるのか、人員が増えるのか、減るのか、そのままがいいのかというのがあるんで。

○中西委員長 この条例の採決を行ってもいいかどうか。その返事を聞かないとこの条例の採決はできないということであればしばらく休憩して返事を待ちますけども、青山委員いかがですか。返事をもらいますか。

○青山委員 これについて予算づけというのはどうなるのか。人事の予算づけというのはどっかに出てきているんですかね。

○石原教育部長 今回の措置がために何らかの形で予算を増加するとか、そういったところには至ってはございません。ルートの問題につきましても、委員からも御指摘がありましたように備前中への配送も行っておりますので、そういったルートでの工夫も含めて今回の対応を行っているというところでございます。

先ほど、立川委員の御質問にもありましたように、今まで片上小学校での自校調理に携わっていた人員も8月1日での人事異動を行って、その分伊里共同調理場での勤務ということでマンパワーも集結をしております。そういったところとルートの配送の問題も含めて計画的にあらかじめそういうことを想定した上での今回の伊里共同調理場への統合という形での臨んでおりますので、それがために予算を増加というところ、人員をとということではございませんので、その点は補足をさせていただきたいと思えます。

福利厚生部分でのお話もございました。勤務場所が変わることによりまして、職員のそういった異動は付き物といえましょうかもしれないですけれども、通常でも市内の調理場の中での異動というのは定期的に4月に行ったりしておりますので、勤務場所が変わればそういった通勤手当、そういったものも当然変わってはきますけれども、それは付随するものと捉えていただければと思います。

○中西委員長 しかし、伊里共同調理場に管理栄養士が何人、今まで1人いましたから片上から移って2人になるんか、それから調理員も何人になるんか、それを立川委員の質問に答えられるようにしてほしいと。ルートもどういうルートになって大丈夫なんだということは報告をしてほしいと思えます。

暫時休憩します。

午前9時45分 休憩

午前9時50分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○草加教育振興課長 先ほどお答えできなかった点についてお答えいたします。

今回の変更に伴って、先ほど申し上げたとおり栄養士は1名、それから調理員が2名片上小学校の調理場から異動しております。

それから、ルートにつきましては今まで3ルートで行ってまいりました。その中で、東鶴山小学校、三石小学校、三石中学校、この2つのルートにつきましては今までどおり変更はございませんで、伊里小学校、備前中学校へ配送、配食していたルートに片上小学校を追加して、このルートが3往復になります。ただ、先ほども申し上げましたとおり、調理後2時間以内の給食という点についてはクリアをするものと考えております。

それから、申し訳ございません、1点数字の修正をさせていただきます。

先ほど、伊里共同調理場の今回変更後の食数が397とお答えをしたんですけれども、すいません、これが小学校だけでございまして、中学校を含めましたら変更前の722から843、片小の生徒数121名分が増えることになります。ただ、調理のキャパシティについては従前どおりでございます。

○中西委員長 ほかに質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、質疑を終了してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより議案第83号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第83号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第83号の審査を終わります。

暫時休憩いたします。

午前 9時52分 休憩

午前10時10分 再開

○中西委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

***** 報告事項 *****

まず、報告事項をお受けしたいと思います。

○草加教育振興課長 教育振興課から1件報告させていただきます。

備前市における教育のまちづくりを推進するため、岡山大学大学院教育学研究科を窓口として連携協定を締結する準備を進めております。この経緯としましては、今定例会に補正予算として提出しておりますうち、岡山大学大学院の研究室が開発した新型eラーニングを試行的に導入するための情報収集を行う中で、教育のまちづくりを推進するため相互の協力ができないかということになったものであります。ただ、締結につきまして予算計上関係はございません。

連携する内容としましては、学力の向上に関する事項や教育施策の提言、改善に関する事項などを想定しておりますが、協定書の文言について現在調整を行っている最中でありますので、現時点では確定しておりません。今後、連携協定内容が固まりましたら改めて御報告させていただきます。

○波多野社会教育課長 社会教育課及び公民館活動課を交えまして5点報告事項がございますので、順次御説明いたします。

まず1点目、新型コロナまん延防止重点措置による施設対応でございますが、新聞報道あるいは備前市ホームページに掲載のとおり、備前市の全てのスポーツ施設、それから公民館施設はまん延防止以前の緊急事態宣言と同じ対応とするということで、9月30日までは全館、全施設基本的に閉鎖でございます。閉鎖と申しましても、館の職員の作業、それから外部の修繕等がございましたら業者の出入りあるいは図書の一部貸出し等につきまして市民センター、それから日生地域公民館、吉永地域公民館では電話予約による貸出し、返却は従来どおり行うようにしております。

また、岡山県テニスセンターにつきましても原則閉鎖ということでございますが、県の姿勢があらかじめ予約してあってどうしても実施しないといけないような全国大会につながるような大会、あるいは学校教育の一環で行われるような大会については新型コロナのまん延防止策を十分配慮した上で実施するというようになっておりまして、備前市におきましてもこの秋の9月末、備前東地区の中体連さんの県大会につながる大会につきましては小学校、中学校等の学校施設よりも広い運動公園のほうがコロナ対策の一環としては十分間隔を取ってできるのではないかとということで一部実施とさせていただいている次第でございます。ほかは原則閉鎖でございます。

続きまして、補正予算の補足説明をさせていただきたいと思っております。

本日お配りしている資料でございますが、日生運動公園におきます大型遊具及びスケートボード場の補足説明資料をお配りしております。

一般質問の際にこの大型遊具については白黒の形で資料提供をさせていただきましたが、本委員会におきましてはカラーとし、カラーリングのほうもこれ一つの大きな特徴となっております。つまりスロープで車椅子のまま遊具にアクセスできる構成で、乗り移った先には1人ずつ遊べるようなスライダーとか、大勢で一緒に遊べるモーグルヒル、この青い一番広いやつなんですけども、そういうのを配置いたしまして、視覚、聴覚、触覚におきましても最近の乳幼児の障害を持つ子供についてもカラーリングを十分配慮したものであり、カラーパネルであったり、それ

から視覚の障害がある人はがら、ビー玉、パネル、それから展示パネル等も採用させていただいております。

パラリンピックでも大きく取り上げられておりますが、これからの日本は多様性に対応するような、子供のときからこのようなものに対応するような公園、遊具が求められているのではないかと思います。現に、都市部におきましては新築のこども園、幼稚園等にも採用されているものであります。せっかくわんぱく丸を潰した後設置する遊具ということで、多少お金はかかりますが、日生だけでなく全地域からこの遊具を少々不自由なことがあっても利用して、とにかく親子で一緒に楽しめるようなものということで考えました。

また、この遊具の選定に当たりましては私どもだけの選定ではなく、子育て支援課あるいは幼児教育課にもカタログ等を回しまして優先順位等をつけていただいた上、この遊具に選択させていただいた次第であります。

続きまして、スケートボード場につきましては位置図、それから簡単な図面等を前回配付させていただいていると思いますが、補足説明といたしましてこのスケートボード場につきましてはこれも公園の遊び場の一つというふうに私ども社会教育課では捉えておりまして、極めて初心者が利用するようなセクションを5つ配置しております。この資料を全ては説明いたしません、クォーターランプといいましてジャンプターンをするようなセクション、それからその下のバンクはその下で、上はぐるっとカーブを描いているんですが、下のほうは真っすぐなバンクであります。これはスケートボードでこの坂を上って一旦着地しまして、また下りる、その練習用であります。

3番目は、ファンボックスといいまして上って一番上で一旦止まって下に下りる、これを繰り返すセクションであります。

4番目は、ロンチランプといいまして、日本ではジャンプランプというような呼び名があるんですけども、先ほど上ってまた折り返すのではなく、その上るまでを練習するようなランプということであります。

それから、一番最後がフラットレールといいまして、オリンピックを御覧になられた方は御存じかと思いますが、オリンピックはこれを階段の手すりのようなところから並行にスケートボードで下りてくるようなイメージでしたが、初めっからそんなものをつくったら人が続出いたしますので、これはもう子供の平均台ぐらいの高さでちょっとボードを横にして遊んでみようかというようなものであります。高さは40センチでございます。

この5つを組み合わせた形がA3の資料の右上のパイプでございます。限られた敷地内でこれだけのアイテムでしたら7メートル掛ける25メートルで結構なんです、あくまでも公園に親子連れで行って初めて乗るような子供たちが初心者練習ということで少し広めにしまして、10メートル掛ける32メートルの広さにしてあります。

この広さというのは、最初のスケートボードを練習するときは当然このようなアイテムからや

っていくのではなく、地面を真っすぐぐるぐる回るところから始めるということですので、そのスペースがなかったら公園の遊び場としては成り立たないというようなことを、日本スケートボード会員の方に来ていただきましていろんなアドバイスを受けた上で、あくまでも初心者の遊び場ということで周りをぐるぐる回れるようにしております。

一番下が、これと同じアイテムを採用しております兵庫県の福崎町のスケボー場の写真でございます。

ここは無入ということ、あくまでも申請をしていただいて、オーケーですということになりましたらステッカーを発行いたしまして、必ずヘルメットにそのステッカーをつけた上でここを利用するというごさいます。時間は9時から日が沈むまでということで、夜間利用は近所迷惑にもなりますので、お断りしているということであります。

もしこの予算が成立いたしましたら、備前市におきましても同じような形態を取りたい、近くの日生運動公園の体育館で受付等はさせていただき、飛び込みについては御遠慮いただき、あくまでも使っている人が把握できるということで今考えております。

スケートボード場につきましての補足説明は以上でございます。

続いて、3番目のスポーツ推進計画に対する意見募集の公表をさせていただこうと思ひます。

7月30日までの市民からのパブリックコメントはございませんでした。御意見といたしましては、7月19日、8月19日におきます教育委員会会議での教育委員の方からの御意見、それから7月26日月曜日の厚生文教委員会におきます御意見が6名、31件ございました。その中でも御意見のとおり訂正するもの、それから検討させていただくものを除きまして、市の考え方としまして最初のページは教育委員会が策定するものでございまして、初めにというような挨拶文は全部入れさせていただこうと思ひます。

それから、次のページをめくっていただきまして一番上は備前市体育協会が7月総会におきまして備前市スポーツ協会に変わりましたので、訂正した上、所属チーム、人数の推移、主な大会の成績につきましては各連盟の活動を多岐にわたって競技規模やチーム、人数の考え方も異なることから、これは連盟のみの表記とさせていただきたいと思ひます。

次に、その下でございすが、計画の理念と体系につきましては、この追加の表を入れさせていただいております。

それから、その次のページの12番のところでございますけども、資格取得に係る経済的支援の記述を加えてほしいということですが、それにつきましては一般的に競技団体に所属している方が個人として、またはチーム役員として受けることと考えており、市としては認定講習などを開催することで指導者の養成の支援をしていきたいということでございます。

また、野球場、人工芝のサッカーコートの整備の記述でございますが、御意見は伺ひますが、明記はせず、また野球場の記述についても再検討をさせていただこうと思ひます。

それから、次のページに移りまして、20番の全国大会につきましては、当面全国大会の予定

はございません。また、国際大会の記述は再検討させていただきたいと思っております。

その下の運動部の活動の向上の地域意向については、適切な指導者や活用可能な事業の有無等について地域のスポーツ団体と連携を図り、県や他自治体等の調整を図りながら検討を進めてまいりますという記述を入れさせていただきます。

その下の障害者スポーツにつきましては、先ほどの総合計画でも質問が出ておりました。その中で、スポーツ推進計画にも入れていきますということで、最後の表のところには何か指標をとような御意見をいただきました。市民に障害者がどれだけいて、その中の何割がスポーツをしているかというのは非常に難しい指標でございますが、一般質問のほうで回答させていただきました備前市から岡山県の障害者スポーツ大会に参加をしている人数、大体30名から40名の間だと思いますが、それについての指標であれば可能ですので、ぜひ県のこういった大会に参加しましょうという奨励の意味でその指標を加えさせていただこうと思っております。

ほかにつきましては、地域活性化の中で活性化のための施設整備、周辺環境、宿泊場や食事をする場所、公共交通の整備も検討できないかということで、私どもでできることは積極的に進めていきたいと思いますが、例えば公共交通の整備や宿泊、食事をする場所についてはこの計画への具体的な記述は働きかけを行います、明記はできないのではないかなと思います。この計画につきましては、教育委員会会議が来週末にございますので、そこで教育委員さんからいただいた意見のほうも公表させていただき、その後発表といった形にしたいと思っております。

また、概要版についても御意見をいただいておりますが、発表についてはこの計画書ということで発表させていただき、概要版については予算的なものも考えながらもっと分かりやすいような形でその後検討していきたいと考えております。

続きまして、10月10日曜日に行います第17回備前市民スポーツフェスティバルにつきまして御報告をさせていただきたいと思っております。

今回のスポーツフェスティバルは、御存じのように9月30日をもちましてまん延防止措置の重点地域から備前市が解除された場合に限りませんが、今まで市民でなくても誰でもというような形でおりましたが、今回は啓発といたしまして備前市民に限りましてということで行いたいと思っております。パラリンピックのメダルを獲得したボッチャの体験コーナーであるとか、100メートル走っての世界記録は無理ですけども、50メートルで100メートルの9秒7とか8とかというような記録に挑戦してみようというコーナーや、抽せん会も考えております。

裏を見ていただきたいと思いますが、1点この資料の訂正のほうをさせていただきたいと思っております。開会式、オープニングにつきましては、今までお越しになられた方は元気のよいチアリーディングのダンスによって大きな掛け声で始めておりましたが、今回大きな声を出して元気よく始めたいところではあるんですけども、チアリーディングのほうは練習不十分と、それから声を発しながらというのに今回無理なんじゃないかということで辞退の申入れがありました。また、このオープニングは人を集めて密集させて行うことに意義があったということで、今回このオー

プニングと開会式につきましては中止とさせていただき、総合運動公園の館内放送等でスタートするといった形でこの資料をつくった後スポーツ推進委員の委員長さんであるとか、関係者の方と相談させていただき、スポーツフェスティバルは何とか市民の体力づくり向上のためにやりましょうということになりましたが、開会式、オープニングが中止となりました。

この開会式、オープニングを除くチラシは作り直しまして、本議会最終日までに議会事務局経由で皆さんに改めて直したものをお届けさせていただきます。ぜひ参加体験していただくのはありがたいことだと思いますし、受付も用意しておきますので、興味のある方はお越しいただければありがたいかなと思います。

最後に、今度は公民館活動課から備前市文化祭の開催について報告いたします。

このチラシの一番下にあるように、新型コロナ感染対策で中止または延期となるような場合がありますので、開催状況の詳しい内容は各公民館にお問合せくださいとあります。

展示等は何とか積極的にやっつけようという中でございますが、なかなか公民館を使っただけの展示に関する練習であるとか、準備であるとかというのがしにくい中で、美術展覧会は何とか頑張っつけてやっつけようということでございます。

それから、中央公民館の備前文化祭につきましても、こちらに示しているような発表会を中心に行う予定にしております。歌舞曲あるいは合唱につきましても、ステージから観覧席までかなり距離を取った上で飛沫の防止等の対策を取っていきたいということでございます。これは日生文化祭、吉永文化祭につきましても同じことでございます。

各地区の公民館でいいますと、香登、片上、西鶴、伊部、東鶴、三石、神根では作品展示を主として行うということでございます。先ほどのスポーツフェスティバル同様、緊急事態宣言及びまん延防止法案の重点地区に指定ということがなければ10月から開催したいと思っておりますし、何とかその開催に合わせて、これは補正予算になりますが、タブレットカメラ等の導入を可決いただけましたら、急いで各公民館や体育施設にも行っていく予定でございます。

○中西委員長 報告事項について、各委員の方の質疑はございませんでしょうか。

○星野委員 まず1点目に、教育における岡山大学との連携についてなんですが、報告事項が多くて内容をあまり覚えてないんですが、新型eラーニングということでの連携という話だったんですが、現在学力向上で予算を取って行っているベネッセとの連携との整合性というのは、今後どちらを優先してやっていくかという話はされているのでしょうか。

○草加教育振興課長 今回御報告の連携は、新型eラーニングを検討する中で出てきた話でございます。eラーニングをするしないということは直接関係がないところで、あとベネッセさんと今やっているプログラムにつきまして、効果のある部分、評価の高い部分については今後も検討してまいりたいと考えております。

○立川委員 何か分かりやすい資料って出ませんか。例えばeラーニングはこういう流れであって、さっきのお話で今回岡大との提携についてはこういう部門になりますよ、というかベネ

ッセと並行してこう動いていますよという詳しい説明書があればありがたいと思うんですが、出ませんか。

○草加教育振興課長 eラーニングと、ベネッセさんのすみ分けについては分かりやすい資料を考えたいと思います。協定自体は備前市の教育のまちづくりを進めるというところに対して岡大の研究的な知見をお借りしたいということでこれとは別で考えております。

○立川委員 今回岡山大学との提携については、教育に関するアドバイスをもらいますよということだけなんでしょうか。

○草加教育振興課長 今すり合わせているものにつきましては、学力の向上に関する事項であったり、教育施策の提言、改善といった事項を盛り込む予定にしております。これについて、この協定があるからeラーニングをするということではなく、予算の有無とは関係ないところで相互協力を検討していくものであります。

○立川委員 大体理解はできるんですけども、誤解がないように、例えば岡大との連携はこういうことですよ。学力向上であったりという面ですよ。その中からeラーニングが出てくるんですよ。分かりにくいんで、例えば連携的には先ほどおっしゃったように学力とか、こういうものを考えていますよ。今、御質問があったようにeラーニングについてはこういう考えをしていますよというようところがイメージ図でもいいですし、そんなものが出れば大変分かりやすいんですがというお願いですが、いかがですか。

○草加教育振興課長 作成の検討はさせていただきます。

○星野委員 次に、補正予算の補足説明をしていただきましてありがとうございます。

今回提出していただいた書類によりますと、大型遊具がこのような形で設置されるんだということを出されているんですが、多様性に配慮した、多様性に対応した施設であるっていいんじゃないかと思うんですが、これまでのわんぱく丸等に比べて全地域から人を集めるっていうのはこの施設では物足りないんじゃないかっていうのを感じるんですが、そのあたりはどうなんでしょうか。もうちょっと大きい夢のある遊具は考えられなかったんでしょうか。例えば隣の赤穂市にあるようなあんな沈没船のような遊具があると思うんですよ。あれぐらいじゃないとなかなか人は集まってこないんじゃないかなと思うんですが、備前市のどこの施設にもあれぐらいの大きい遊具はないと思うんですよ。教育のまち備前をうたう中で、全ては子どもたちのためにつうたう中で、そういう施設こそ考えるべきではなかったんでしょうか。

○波多野社会教育課長 この遊具につきましては、わくぱく丸撤去後のスペースの有効活用という面で、実はその後に説明いたしましたスケートボードの練習場もセットということで、この遊具は大体小学生まで、中学生以上は例えば健常者の子供は物足りないという中で、小学校の低学年までを中心としてさらに6年生までも遊べるというようなアイテムで考えた中の一番いい遊具というふうに私どもや子育て支援課では推奨したものであります。

わくぱく丸との違いは、木をモチーフとしておりませんので、ささくれ等もなく、いいように

使えば20年から30年もつ素材ということで長もちと、それからより低年齢児を集めるというアイテムでこの遊具に考えさせていただいた次第でございます。

○星野委員 一般質問の際に出していただいた位置図によりまして、大型遊具と同等またはそれ以上の規模のスケートボード場が設置されることになっているんですが、スケートボード場をつくってほしいという意見はそんなにあるんでしょうか。それよりも、大きい大型遊具をつくってもっと子供たちが集まれる、小さい子供が集まれる場所をつくったほうがいいんじゃないかと思うんですが、そのあたりはどうなんでしょうか。

○波多野社会教育課長 具体的に、そういうスケートボードの愛好者からの例えば要望書等が出たわけではございません。ただ、私もいろんなところで目にし、また日生運動公園周辺の道路を体育館に向かってカーブして、さらにはこども園の前で折り返している中学生らしき子供たちを施設の職員が注意していた風景も目の当たりにしました。今はあそこでやると怒られるということで、聞くところによりますと五味の市の辺りでやっているそうです。また、この市役所の新庁舎ができた後駐車場が整備され、たまたま遅くまで仕事をして帰っているときに職員の駐車場あるいは市役所の駐車場で親子で子供の手を引いてスケートボードに乗せて車がないところをぐるぐる回っているようなところも目にいたしました。

そしてさらに、今回の提案に至った一番の理由はオリンピックであります。あのオリンピックを契機にメダルを取った選手の地元では、スケートボードの人气が沸騰して自前のスケートボード場を広げていくというような対策を取っているそうでございます。ということで、スケートボードについては私自身も昨年までは非常に迷惑な存在、社会的にもそのような位置づけであったものが、オリンピックを契機にスポーツとして、楽しむものからスポーツとしてやっていくものというような認識に変わったところでございます。

備前市の近隣にはそういったものはないですが、岡山県内で本格的なものは奈義町にございます。それから、百間川とか吉備中央の下加茂みたいに単なる広場でそこでローラースケートをしてもいいよということではございますが、岡山市南区の山田グリーンパーク、民間が経営していたものをその公園緑地協会が買い取ってやっているところ、アイテムがあるのは2か所ぐらいです。もし備前にこれができれば本格的にはいきませんが、いろんなスケートボードのアイテムをつくるものとしては県内でも3番目ぐらいになりますし、路上でやっている人、これから始めようという人についてはそちらのほうで始めていただきたいという私どもの願いで提案に至ったものでございます。

○星野委員 位置図によりますと、スケートボード場に隣接した形で大型遊具が設置される予定ですよね。対象年齢というと大型遊具は乳幼児から先ほど言われました小学校の低学年、スケートボードは小学生から中学校以上が対象になってくるんじゃないかと思うんですが、そのあたりの危険性は考えられなかったんでしょうか。日生運動公園のちびっこ広場にしか設置できる場所はなかったんでしょうか。僕はもっとスケートボード場を設置するのであれば適切な場所があっ

たんじゃないか、もっと検討する必要があるんじゃないかと思うんですが。

○波多野社会教育課長 私どもも最初に考えたときにどこか、もうこれの3倍ぐらいの広いところ、といっても市の土地で適したところというよりも、日本スケートボード協会の会員さんに相談したところ、いきなり広いいろんなアイテムを催した本格的なものをつくったら人が続出しますよと。あなた方の思いはどのような思いですかというようなことを聞かれたときに、一つの公園の初心者のスケートボードのアイテムなんだということを申し上げたら、このくらいの土地のほうがいいんじゃないかなと。また、大きいスケートボード場や高度なスケートボードのセクションを設けますとかなりのスピードが出て、そのスピードによる騒音も相当なものというふうなことで、奈義町も山あいのところにつくっているわけでございます。こういった小ぢんまりとしたものであれば人もそんなにたくさん集うわけではなく、スピードもそんなに出ませんので、音についても騒音の被害というのが公道を走るよりはましじゃないのかなというところで、あの日生運動公園の芝生の有効活用というところであそこを考えたものでございます。

○星野委員 その危険性は考慮されたんでしょうか。日生運動公園であれば広いアーチェリー場も候補地としてはあったんじゃないかと思うんですが、そのあたり、年齢層が違う人が集まる場所でさび分けをしたほうがよかったと思うんですが、そのあたりは考えた上でこの土地になったんでしょうか。

○波多野社会教育課長 柵も何もないところで当然スケートボードで走っていれば親子連れにも迷惑なわけで、このスケートボード場につきましては周りを全てフェンスで囲んだ上、そのフェンス外ではやらないようにということで完全にフェンスの中に限定しておりますので、ほかにこの公園に遊びにくる人については逆に今よりスケートボードは必ずここでやってくださいよということでフェンスの中に限定するというような安全柵、またはする本人は当然ヘルメットとか、そういったものはちゃんと買った上で、貸出しでやるのではなく、購入した上で来てくださいよというような安全柵で区切る予定にしております。

○星野委員 場所の選定は、アーチェリー場等は考えられなかったのですか。

○波多野社会教育課長 日生の運動公園の一番広いところを今グラウンドゴルフ、野球、アーチェリー場等使っておりますし、しかも県のアーチェリー協会の主要な大会というのも行われている関係で、日生運動公園の空き施設というわけではございませんが、もう一つの要件はあの芝生のまま放置しているともう鹿のふんの処理が追いついていかないんですよ。そういうのもあって日生運動公園でやるという前提の下でほかの適地はないと判断させていただきました。

○青山委員 シャワーとか更衣室も付随してつくられるということなんですけど、図面も出てきました。目的といいますか、それと十分対応できるんかということをお聞きしたいと思います。

○波多野社会教育課長 日生運動公園は、久々井の運動公園と違まして更衣室等もう体育館に行くしかないんです。それから、プールのほうも今指定管理に出しておりますが、あの体育館

及びプールにわざわざ更衣に出かける、シャワーを浴びに出かけるという方は皆無でございまして、このような大型遊具と、それからスケートボード広場になりますと、かなりの集客が望めます。また、近隣のスポーツ広場や多目的広場におきましても着替えるとかというような設備がございませんので、この際スケートボード場に付随して計画したものでございます。

○青山委員 大勢を見越してということなんですけど、シャワーも1基なのか、2基なのか。あるいは更衣室も男女を区切ってなのか、人数にも対応できないですし、貴重品の管理とか、あるいは中でのトラブルとかというようなことも考えると思うんですけど、まずあの大きさじゃあ中途半端で対応できないんじゃないのかなあ。必ずしもそれが必要なのかなあと思うんですが、いかがでしょうか。

○波多野社会教育課長 あのスペースですので、大きな更衣室は不可能ではないかなというのと、皆さんが皆さん更衣するわけではなく、それから管理する側の負担も考えて逆に小さくまとめたものを計画したものでございます。今回は、管理のしやすさというものを前面に考えてこの大きさにしたものでございます。

○青山委員 開け閉めなんかはどう考えられとんでしょうか。

○波多野社会教育課長 開け閉めについて朝から晩まで開けっ放しというのは非常に私どもも危険性が高いと思いますので、窓口に来ていただいて、開け閉めは施設の職員がするという形を考えております。

○青山委員 となりますと、ばらばらばら来られるわけなんですけど、この対応は大変じゃないかと思えますし、私は例えばあそこを野球やサッカーなんかで使っていますけど、特に雨が降って泥んこになったとかというふうなときは大変かなと思うんですけど、そういうときには来られんでしょうし、汗をかく程度でそんなにシャワーを浴びての更衣室とかというふうなことは必要ないんじゃないかと。もしそれをするんなら野球やサッカー、あるいはテニスコート、そこでも使えるようなものを別につくって共用するというふうなことのほうが実用性があるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○波多野社会教育課長 運動公園をお使いの方ほどなたでも御利用できるというふうにしたいとは思いますが、基本的にはあの広場の方が利用されるのではないかと考えております。

例えば野球場、それからテニスコートであればすぐ近くで更衣されるというのが多いんじゃないかと思えますので、全体的な利用につきましてはまだまだ私どもも検討の余地があるかと思っております。

○青山委員 管理上の問題、それから効率のいい使い方ができるのかということではぜひお考えいただきたいと思えます。私は、なくていいんじゃないかと思っております。

○藪内委員 関連で。先ほどから何度もわんぱく丸、わんぱく丸と言われているように、そもそも問題であそこはぼやあっと空いている状況で、それがよくなってわんぱく丸へ行こうと小っちゃい子供に言い聞かせるであるとか、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんが、小っちゃい子

供たちを連れてこども園とかに連れてきた人がふらあつと、ぼやあつと過ごす時間でそのわんぱく丸みたいな象徴的なものがあればいいと私は思いますし、そういう声がずうっとあるわけですし、そこに何も狭いのに、確かに今スケートボードとか話題の中心であっていいとは思いますが、スケートボード、スノーボード、それから自転車を利用したものとか大変危険だと思うんですね。だから、もしそういうのを設置するのであれば指導者がいて、常にそういう人たちの指導、監視の下でやらないと頭だけじゃなくて脊髄とかを痛めたとかというような問題があるんで、だからそういったときにそれを備前市がやっていてよかったのかなあとかという問題になると思うんですけど、どうでしょうか。

○波多野社会教育課長 まず、遊具につきましてはわんぱく丸というのは約30年間ほどあの公園の象徴的なものであったというのは私自身も理解をしているところでございます。ただ、前回の6月補正で出したようにもう遊具の判定としては最低ランクのD判定で撤去相当ということで、これを全て板1枚ずつ直していくといたしましても700万円近くかかって、どのようなものになるかというのもともと組み立てていたものでございますから、修理は不可能ということでこの際の遊具とさせていただきます。この遊具につきましては、先ほどまで説明させていただいたように、より子供の多様性を、これからの子供ということで重んじた選択でございます。

それから、兵庫県福崎町に無人の同じようなものがあるということで、危険性についてはヘルメットなしでの入場、あるいは危険とされるような行為を見かけたとき、火気厳禁、スケートボード以外での利用も厳禁、またもし補正予算が通りまして来年春オープンのもりでおりますが、当面は指導者に来ていただいて、例えば温水プールのトレーニングルームのように一通りの指導を受けた上で許可証を発行するような形にしていきたいなと思っております。危険性については先進地を参考に、その対処をこれから考えていく次第でございます。

○藪内委員 私もわんぱく丸については名前がそういうふうにもうみんなに浸透しているということであって、象徴的なことであって、もうそら年数的にもいろいろ傷んでいることを考えると撤去はそれで正しいと思うんですよ。ですが、また同じような象徴的なものをつくって、そら鹿のふんとかあるのかも分かりませんが、あそこをゆっくりと、やっと歩くようになった子が安心して歩けるようにするであるとか、そこでしていいのかどうか分かりませんが、みんな自転車の練習を最初あそこでやったりするんですね。だから、そういう場所でもう少し清掃等をして、そういう場所でいいと思うんです。

ほんで、スケートボードは指導者の下で必ずやるというのが正しいと思っていて、今例えば五味の市のところであるとか、プールの周辺の道路でやる人の対策としてはどこかその場所を決めてそういうフェンスで囲ってあるところであれば、こけたときにボードをばおっと蹴り出したりするんで、車とか人に対して危ないんで、そういうのは必要だと思いますけど、果たして日生の辺りで何人かしている人に対しての対策でいいのか。

もっと人数的なことをいうと、例えばいつも問題に出ます片上とか伊部の人がもっと多いとこ

ろに計画して、そしたらいろんなところから集まれて、それはそれでまた利用者が増えるんじゃないかと思うんです。どういう数字を描いての日生地区での設置なのかももう少し説明いただけたらとありがたいんですけど。

○波多野社会教育課長 人が多いところにそういった遊び場を持っていくというのは私も大変理にかなった方策ではないかと思います。今回の場合は、適地を探したところ、これをつくってももう半分は芝生広場としてわんぱく丸撤去後は開放しておりますので、人数については恐らくスケボー広場ができたということであれば日生の運動公園のほうに車でお父ちゃん、お母ちゃんと一緒に子供が来るのではないかと、駐車場も十分あると思いますので、そこに大きいものをつくと人がごった返す可能性もございますが、このようなコンパクトなものであれば一番最初の適地としてあそこを選んだという次第でございます。

○森本委員 スケボーはきっと小さい子は保護者同伴になると思うんですけど、年齢的には何歳まで保護者同伴で、何歳以上は1人でもいいですよというふうなことを、福崎の例もあるんかもしれないんですけど、考えておられるんですかね。

○波多野社会教育課長 保護者同伴は、子どもが先進地の無人のところを参考にさせていただいた今の予定は小学校6年生までは保護者同伴でぜひお願いしたいと。それから、中学生の利用については保護者の承諾書を頂いた上で利用申請を出していただくということを考えております。

○森本委員 先ほどからわんぱく丸の話を上げています。確かに私も子供を連れていったので、遊んだ記憶があるんですけど、小さい子が遊ぶには大変で、保護者がついて回らないと駄目です。小学生の高学年ぐらいになったら物足りない部分もあるかもしれませんが、遊具はどこを対象にするかが非常に難しいと思うんです。全対象にしようって思ったらそれこそいろんな大がかりな遊具になってしまうんですけども、こういうような先進的な遊具を取り入れようと考えたのは最近のオリンピックもパラリンピックも受けてのそういう状況からでこういうのをもう子供から受けたとか、またいろいろお話しされた中でこれが一番いいのではないかという、教育的な面も考えたこともあるかもしれませんが、それで考えられたんですかね。

○波多野社会教育課長 障害を持つ子供に配慮してというのもこの遊具の売りではございますが、子供の多様性に注目して、例えば障害を持つ子供については保護者の方ももう生まれて乳幼児のときにどうやって子供らしい活動をさせようかということで非常に悩まれると思うんですよ。私が思うのは、パラリンピックの精神がもともと始まったのは障害を持つ人は病院にいなさいというのが今から半世紀以上前の考え方でしたが、こういったことで体を動かすことによって健康になろうよと、心の健康と体の健康を何かこういう器具を使って物を投げてみよう、それから飛んでみよう、走ってみよう、車椅子で競争してみようということから始まるその大本の乳幼児期の遊びというのがあってもいいんじゃないかと。

それから、当然公園ですので、健常者の子供たちも親子連れで遊びにくると思います。そういったときに健常者の人にとってもこういった子供でこういったことができない子と一緒に遊べる

んだよ、これが小学校に行っても、こども園においてもそういった子供たちが入り交じって多様性を生み出していく中での一つの遊具のモデルとしてこれを機に多様性を認めましょう、それからもしできないことがあってもこの遊具なら楽しんで遊べるよというのが根本的な考え方でございます。

○**西上副委員長** 大学との連携に戻るんですけども、大学もメリットがないと連携に応じてくれないのかなと思うんですけど、大学が求めるメリットはどういうものがあるのか、向こうはどう説明しているのか、分かりましたらお願いします。

○**草加教育振興課長** 現在のところ、まだ協議中ではございますけれども、大学側として学術研究の発展につながれば、また研究成果が社会活用の推進に貢献できればというところをメリットとして感じてくださっているようでございます。

○**西上副委員長** 大学もそのようなメリットを感じているということで、そちらと連携して事業を行うのに当たりまして事業主体は大学になるのか、備前市になるのか、その辺のことはどうふうなお考えなんでしょうか。

○**草加教育振興課長** この主体につきましては、今検討している文言の中で相互発展を図るということで双方協力してということで、お互いが主体として共に取り組んでいければと思います。

○**西上副委員長** 相互発展ということは、施設も相互利用が可能なのかというようなことはお考えなんでしょうか。

○**草加教育振興課長** その点につきましては、まだ詳細な検討はできておりません。

○**西上副委員長** 今図書館問題もありますので、大学にはとても多くの図書が蔵書されておると思っていますので、そういうことも含めましてぜひとも大学の連携を密にさせていただきたいと思えます。

そしてもう一点、大学の研究教育活動が直接こちらに伝わってくるんじゃないかなと思うんですけども、教育現場においてはどのような混乱というんか、学校の先生方とそのような周知は、これからされていくんじゃないかなと思うんですけども、今岩井先生が目が合いましたので、現職の教員としてどのようにやっていかれるのか、少し分かりましたらお願いいたします。

○**岩井小中一貫教育課長** その連携の中で、例えば学校で少し試してみたいというような話であったりとか、そういうことが出てきた場合には当然学校は通常どおりの教育活動を進めているわけで、その事業自体の趣旨であったりとか方法、そういうものを学校とも協議しながら進めていく必要があると思っています。必ずもうこういうことをするからこれに協力してくれというような流れよりは、しっかりと理解してもらった上で先生方もこれは子供たちにとってプラスになるんだなあという思いを持って進めていくべきものと考えています。

○**森本委員** 岡大はSDGsが先進的で、岡山市とかではもういろいろ協定を結んでやっているんですけど、備前市にもこういう観点は入ってくるんですかね、SDGsに関しては。

○**草加教育振興課長** 現在の協議の中ではそのフレーズが残念ながら出てきておりません。今

後、協議をしていければと思います。

○立川委員 補正予算の関係でちょっとだけ。

この遊具も今回色刷りのやつを拝見させていただいたんですが、これ多様性ということでおっしゃられるように車椅子の方、それから各種器具をつけられた方を対象にもしておるといことなんです、さっきおっしゃったように土日駐車スペース多分狭いですよ。車椅子対応のスペース、今何台取っとられるか御存じでしょうか、あそこの駐車場で。

○波多野社会教育課長 台数については把握しておりませんが、一番端のところは車椅子対応でして、それは4台程度ではないかなと思いますが。間違っていたら申し訳ありません。

○立川委員 というのが、多分このスペースに遊びに来てください、さっきのスケボーもそうですが、どうなるか多分御存じでしょ。いい気候のときには野球場、テニスコート、子供たちがサッカー、わんぱく丸の跡地で遊具で遊ぶ、隣でスケボーをしてる、そらすごいですよね。どうやって皆さん来られますか。ということを考えられましたか。いかがですか。駐車場はもう十分だと思われませんか。

○波多野社会教育課長 駐車場につきましては、今遊具が壊れて使えない状態で一番南の広いところに車を入れたりとか、工夫して使っていると聞いております。この遊具あるいはスケートボード場というのが今秋から補正予算が成立いたしまして増えるということになりましたら、当然この遊具も多様性の遊具ですから車椅子、障害者の方のスペースの確保、それから駐車場の確保については今でも園の職員から大変困っているという話は私は聞いておりませんが、考えていかなければいけない、使わないところに車を入れるというようなことも安全性に配慮して検討していかなければいけないものだと認識しております。

○立川委員 ちゃんと考えられましたかということです。おっしゃるようにこのわんぱく広場の予定されている向こう側は、昔幼稚園のお迎えでその時間はもうざあって並んでました。今度、一応秋のいいシーズンになって野球大会がありいの、子供たちのサッカーがありいの、テニスがありいののときに一度御覧になってみたら分かると思います。路上駐車いっぱいなんですよ、今でも。そこへ子供たちの分を持ってくる、それから車椅子対応のスペースをつくる、物理的に無理だと課長も多分感じてらっしゃると思います。ということで、マネジメントが全く理解できないんですよ。にぎわいの創出、ある意味トラブルの創出になる懸念が非常に高いというのは多分皆さん考えておられると思います。

先ほど出ましたスケボーの練習場、これも造り酒屋さんが蔵を改修して金メダルを取れたと。造り酒屋さんの向こうを張る必要ないんじゃないですか。参考事例としてありますけど、福崎のスポーツ公園は僕も行ったことがありますけど、めっちゃくちゃ広いですよ。駐車場も。そういうマネジメントをしないで、資金も一般財源ですよ、スケボーは。片一方は企業版ふるさと納税ですよ。大丈夫なんですか、こういう計画っていうのが一番に思います。

だから、トータル的に考えて体育館もそうです。体育館で行事があったら日生の運動公園いっ

ばいです。この広場用の駐車場にいっぱい止まってらっしゃいます。御存じのはずですわ。そこへこれだけのもんが乗ってきたらトラブルの創出以外何物でもないと私は感じるんですが、その辺この計画をもう少しお考えになられてはと。いいことだと思うんですけど、現実味が全く感じられないんですよ。さっきお話がありましたように計画が拙速なような気がします。

スペースっていうのは物理的なもんですから、さっきお話出ましたけど、アーチェリー場を使うとか、それは使いません。じゃあ、あの南の処理場のこっち側使うか、それも県の施設ですから使いません。おっしゃったように夜間に子供たちが道路からずっとスケボーで遊んでいます。今野球場、サッカー場、テニスコート、あの石畳のところ、あそこですの目に見えていますよね。じゃあ、誰がどういうふうにお問い合わせをしてやめさすんでしょうか。無人、無料ですよ、基本的に。じゃ、誰が指導するんですか。ということをもう少し考えていただけたらと思うんですけど、いかがでしょうか。もっと施設はあるように思うんですけど。することは否定しません。いいことだと思います。言葉は悪いですけど、あそこですることについて少し計画がずさんといえずさんといえますか、物すごく拙速感しか感じないんですけど、その点はいかがでしょう。予算委員会の部分を残してそれだけお尋ねしておきます。

○石原教育部長 御懸念、御心配の御意見大変ありがとうございます。ごもっともなお考え、御意見だというふうには認識をいたします。まずしっかりと受け止めさせていただきたいと思っ

ているところでございます。もともとの考え方のスタート地点としましては、先ほど思いであるとか理念、そういったものについては波多野課長が申し上げたとおりでございます。一つ一つの懸念というのもトラブルにつながりかねないのではないかと、そういった御意見も非常によく分かります。ですが、そういったことを課題の一つ一つとして最初っから課題に背を向けるのではなくて、そういったものは新しいことをしようとすれば必ず課題というものは当然出てくると思いますので、課題をクリアしていくことが我々行政マンの努め、役割だと思っております。

それから、理念につながる部分かとも思いますけれども、多様性を我々がどのように受け止めていくか、それぞれ違う場所、違う位置で行うことに、それは安心感も伴う部分はあるかと思えますけれども、それを乗り越えて共存していくということがこれからの我々世代、新しい世代に求められている部分ではないかとも強く感じているところであります。トラブルの元になりかねないものが一緒に集うよりは分けて考えたほうがよい、それはもうどなたが考えられても安心・安全だというふうになると思います。ですが、限られた空間の中を今まではわんぱく丸で憩いの場であったということは、市民の一定の需要にも応えていた部分であろうかと思えます。ただ、時代も変わってきております。そういった新しいニーズに対応していく上でもオリンピック・パラリンピックが一つの契機になって、この備前市からそういった理念も発信できる場につながっていくのではないかと。大きい理念を申し上げるつもりはございません。私のほう、こういった遊具の場所で一緒に過ごす空間も過去にも見てきております。子供たちも化学変化にはも

う目をみはるものがあると思いますので、そういった点もまた予算委員会でもしっかり御協議いただけたらと思います。

○立川委員 申し上げときますが、理念その他に何も異議は唱えません。多様性についても結構だと思えます。ワンホール18センチのケーキのパイしかないのに何人乗せるんですかという疑問なんです。トラブルのもとでしょうと。しっかり計画をとという気がしてなりません。

それからもう一つ懸念なんです、スケボー場も多分フェンスするというようなことだったんですが、間違いなくフェンス乗り越えてやりますよ、中学生ぐらいが夜中に。ということも考えてくると、例えば初級者コースなんですけど、次のステップ、中級者、上級者ということも考えていかざるを得ないと思いますので、山中の物件ですね、一つの例言いましたらたまたま産業廃棄物の処理場、処分場、これ跡地どう使おうか、あれは山中ですわ。道も2号線からすうっと行けますわ。何ぼ夜中騒いでもうてもイノシシか鹿しか怒りませんわ。というようなところもまたあるんじゃないですかね。八塔寺のほうを使うとか。そういったプランニングで、そちらで総合運動公園的なプランを考えていただけたら地域住民もおりますし、あそこであががあががああといていたら多分そうなると思えますし、やっていったら次のステップが欲しいんですよ。ここだけ3つぐらいでこんなしてしとけやというところで終わるんですか。やっているほうは終わらないと思うんです。うちらの子供もそうでした。最初は小っちゃいやつからどんどん大きくなりますよね。ということもしっかり考えて、マネジメントをしっかりしたプランを立てていただけたらありがたいなというのをお願いしときます。

○中西委員長 ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、報告事項に対する質疑を終結いたします。

ここで所管事務調査に移る前に暫時休憩したいと思います。

午前11時29分 休憩

午前11時38分 再開

○中西委員長 それでは、委員会を再開いたします。

***** 所管事務調査 *****

所管事務調査を行います。

○松畑教育長 いろいろ議論をいただきまして、私もモニターテレビで意見をお聞きしております。いろいろありがとうございます。

貴重な委員会の時間を割いていただきまして、報告のチャンスをいただきましてありがとうございます。

議会でも少しだけ述べさせていただいておりますが、最初に私のほうから少し詳しく、約15分間ぐらいで全体説明をいたしまして、その後皆さんから御自由に御質問なり、御意見をお聞かせいただければありがたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

全体といたしましては、非常にユニークな構想を含んでおりますので、理解していただくことがしにくい面もあろうかと思っておりますので、できるだけ分かりやすく説明をいたしたいと思っております。

いろいろな学校訪問、その他の機会を通してこれからの備前市の教育は新しい教育大綱の今策定中ではありますが、ぜひみんなで作る教育のまち備前市という、今まで全ては子どもたちのために、教育のまち備前市となっておりますが、このみんなで作る教育のまち備前市というのを全面的に押し出して、もう備前市全体でみんなで教育を盛り上げていく町にしたいと、それが全ての基本として考えております。

その基本的な発想に基づいて、今回は備前市まるごと大学校と、もう一つのまちじゅう図書館という2つの構想を今日は説明させていただくということであります。

今回は、あくまで全体的なビジョンとか理念を中心とした構想案を示すものでございますので、これに基づいて今後具体化していく、市民の皆さんや議員あるいは教育委員の皆様方、その他御意見を聴取しながらみんなで作る大学校あるいは図書館にしていきたいと思っております。あくまで今日は教育システムを中心に説明するものでございます。

第1の備前市まるごと大学校です。これは一応仮称としてはコミュニティーアカデミー、ローバル備前としております。ローバルというのは耳慣れないかもしれませんが、私が20年ぐらい以前から造語で使っています。ローカルにグローバルのバル、ローカルからグローバルへという流れを大切にしたいということで、地域、ローカルを中心にしながら備前、あるいは日本を中心にしながら世界へ、視野を持ち世界に発信できるような、そういうローカルからグローバルへという意味でローバル備前というふうに考えております。

これは備前市全体を一つの大きな学校というイメージであります。もう既存の学校、園、あるいは生涯学習校、文化施設、スポーツ施設、あるいは今新設を予定、計画中の専門学校などなど全てを含んでまるごと大学校と。ですから、備前市の町全体を学びのフィールドとし、いろいろな形を通して、市民全ての人が入る、入ってもらおうと。そういう教育システムでありますので、新しくどっか大学校を建設したり、大学をつくるというような意味じゃありませんので、それは誤解のないようにしてほしいと。あくまで教育システムの構想であります。

その中核を担うのは地域学校共同本部と考えています。地域と学校とをつなぐ全体の共同本部ですね。発信基地のような企画運営、市民みんなが地域の子供の、地域みんながもう地域の子供の育て親だと、一人一人が子供を育てていくんだと、あるいは自分たちも育てていくんだと、そういう学校や地域のニーズに合わせて子供たちの成長にとって何が重要であるかを考え、より望ましい教育の在り方、具体的な活動の企画運営の発信基地となるようなものとして地域学校共同本部というものをつくりたいと。

その基に各地域10地区ありますので、支部的にまちづくり会議などとも連携しながら支部ができるといいかなあと考えていますが、全て学校、社会文化施設、地域住民、団体など緩やかに

ネットワークを組んで地域のそれぞれの活動をネットワーク化してコーディネートする、そういう役割を地域学校共同本部として位置づけております。その基に学校、園を中心にしてコミュニティ・スクール、これは文部科学省が進めているコミュニティ・スクールとは少し違います。文科省が進めているコミュニティ・スクールというのは各学校ごとに地域とのつながり、学校運営協議会などをつくって進めるというものでございますが、私が考えているコミュニティ・スクールはこの地域全体、備前市全体がコミュニティ・スクールと、具体的には学校や保育園、こども園、それから小学校、中学、高等学校の全体がコミュニティ・スクールであると。その相互の連携をしながらコミュニティ・スクールとしての役割なり、責任を持って進むにはどうしたらいいかというようなことを地域学校共同本部などが学校その他と連携しながら進めていくと。

それから、真ん中2番目にありますのはボケーショナルコミュニティ・スクール、職業学校的な専門学校、そういうものが考えられていると。

それから、3番目はライフロングコミュニティ・スクールで生涯学習的な図書館と公民館と社会教育あるいは社会文化施設、これはもうスポーツ施設なども当然入ってくるわけですが、そういう全てのものを一括したものとしてこの備前市まるごと大学校というものを考えているわけです。ですから、これに基づいて先ほど申し上げましたように特別な土地だとか、建物だとか、大きな予算を伴うとか、そういうことは考えていません。どこかに地域学校共同本部を既設の建物なり、あるいは新設されるものの一角を使わせていただけるものがあればそういう一角を使わせてもらうという程度のもと考えております。後から御質問、御意見を聞かせていただいて、取りあえずの第1の説明として、まるごと大学校のほうはそういうことでございます。

それから、2枚目に行きまして、備前市まちじゅうどこでも図書館ですが、図書館ピラミッドの構想という形で、ピラミッドの形にしたほうが見てもぱっと分かりやすいかなということでピラミッドの形にまとめさせてもらっております。

最初に概念図を見てもらいますと、一番上に中央図書館といいますが、図書館の本館があると。それから、今あります日生、吉永の分館、また三石にはございませんが、できるだけ早い時期に何らかの形での分館的なものにできればと考えております。それから、その下に公的な施設図書室、学校、園、公民館、いろいろなところに図書館がございますね。そういうようなものがあります。このあたりは全国にどんどん増やしてまちじゅう図書館というものが議会でも説明させていただきましたように数件全国にもございます。それから、御近所図書館、これから以下のものは特に全国に例がありませんので、これは私のオリジナルなものであると考えて、全国に例がないので、これをきちんと整備して進んでいけば日本一の図書館のまち備前市ということにもなるかなあという夢を描いております。

今までにもいろいろある程度の意見聴取をさせていただいております、こういう御近所図書館なりおうち文庫があったらいいなあというようなものは御意見をお聞きしておりますので、そういうものを集約しますと先ほどのまるごと大学校と基本的には同じですけども、10小学校区

の10地区にそれぞれの御近所図書館を置きたいと。これは各地区に今のところ2館程度、全体で20館程度の御近所図書館というものを、規模としては中規模といいますか、数百個以上を原則として教育委員会が認定するようなものを考えております。原則は私設であります、一部市費からの助成をさせていただいたりしながら公的な要素はそこに持たせていくということは考えておりますが、基本的には私設のものを考えております。

この例の右端に小さく示していますように、御近所図書館伊部文庫とか、三石文庫とか、そういうようなものが具体的にはできていきます。一つ考えられる例ですけれども、これはこの議会の議案の中にも出ていますが、議案第72号に伊部の天津神社東側用地の土地取得が議案に上がっておりますけれども、例えばここを御近所図書館として機能をし、あるいは同時にミニコンサートとかミニギャラリーなどもできて市民密着の文化交流の拠点である、あるいは観光の拠点になるような、そういう御近所図書館を中心にしながら地域のつながりを文化観光の拠点となり得るような、今までにないような形のものでできるんじゃないかなあと、そういうことを一応例としては考えております。そのようなものでないといけないという意味じゃありません。例えばそういうものが十分考えられるので、できたら伊部御近所図書館、伊部文庫の一つとして今土地取得を予定されている伊部天津神社東側の用地をできるところにできて、公設民営的にといいですか、そういうものとしてできたらいいんじゃないかと考えております。

それが一つの例ですので、全くの私的なものもあります。既にこういうものができるとしたら私が実際にもうやっている文庫を活用してほしいという意見も一、二、既にもう聞いております。そのような形で各地域から要望を出してもらって、教育委員会が全体としてこれは望ましいもんだなということで認定されていく、そういうものを全市20館程度で今のところ考えております。

その基に、今度はおうち文庫とか縁側本棚、これ皆さんある程度年配以上の方は御承知のように、昔は縁側非常に人々のつながり、団らん、コミュニケーション、近所のつながりというものが非常にあったわけですけど、それがだんだん失われつつあります。本が縁を取り持つ新しい近所のつながりを縁側本棚やおうち文庫、これはもう数十冊程度以上で、もう本だけではありませんので、CDだとか写真集とか絵画的なものとかがいろいろあり得るでしょう。本が中心で自分の本を他の人に提供したり、貸し借りをしたり、あるいは縁側での団らんを進めたり、それからここでは中央図書館あるいは分館などの本をそこまで行かなくても貸出しや返却が御近所図書館でできるようなシステムにしたいと考えております。そういうものとして、おうち文庫、縁側本棚はもう備前市に何年かのうちにできていって、もう町中全体がもう図書館にあふれているような、そういうイメージを持っているわけです。

このような考え方に至りましたのは、最初に申し上げましたみんなで作るという教育のまち備前の図書館版でありまして、ぜひいろいろ私は議会などでも少し話をさせていただきましたが、今まで本当に県内外の図書館や、今までの最近の10年の図書館がどのような形で動いている

か、本や資料その他を通してここ3年ぐらいの間に相当勉強してまいりました。今の図書館はどのようなものか。以前の図書館とはかなり違います。昨年度末にまとめられた調査書、報告書を読ませていただきました。今までの図書館だったらあれである程度いけるかなと思います。ただこれからは第1にデジタルの面が相当進んでいます。それから、もう本にも例えば図書館が町を変えるというような、あるいはつながる図書館とか、いろいろそういう本がありまして、図書館が町の人づくりや地域づくりの中核を担う、あるいは観光の中心も担っていくような、ブックツーリズムといいますけども、本を中心に巡っていく、市内のいろいろな御近所図書館やおうち文庫などを巡っていくような新しい観光のブックツーリズム的なものも考えると非常にユニークでいいんじゃないかなと。そういう新しい図書館を通してのソーシャルイノベーションを目指したい、持続可能なみんながみんなを支え合う社会の中核を担うものとして図書館を考えたい。

そういう図書館とは何かという理念が非常に最近ここ10年間ぐらい非常に変わってきていますので、今新しくのをつくるのであれば最先端に行くような、図書館で私は中央図書館をどのようなものにするかというのは私なりの考え方ありますが、今日はそこには一切触れませんので、システムとしてこういうシステムがきちんとできれば私は日本一と言えるようなものになると確信に近いものを持っております。

さらに、これも議会で説明させていただきましたが、住民主導で図書館のボランティアもどんどんどんどん最初の段階から育成して、2年後に中央図書館ができるとすれば2年間かかって育成し、新しい観光の、この本を読んでほんなら熊沢蕃山のここに行ってこのようにすればさらに学びが深まりますよというようなことが指導できるような、そういう手法、学校司書、図書館司書、本のサポートをできるような人を何百人か2年かかって育成して、そういう人がどんどん館の運営、あるいはいろいろな図書館づくりに進んでいけるような、そういうことを考えております。

最後に、家読というのがありまして、家族、近所の人も同じ本を読み合って話し合うような、そういう家読的な面も少しずつおうち文庫あるいは御近所図書館などで進めていきたい、そのような構想です。最初に申し上げましたように、何らかの大きな予算を伴うものとして提案をしているわけではございませんので、構想案として申し上げました。これに基づいて今まで、市長、副市長及び各部長が集まった会議で2度ほど話をさせてもらって一応の了解をもっております。そのような形で今後これを基本にしなが、あとはプロジェクトチームなどと協力しながら建築の中身とのつながり、あるいは中央図書館をどのようなものにするか、そのようなものを全て議論しながら新しいピラミッド、図書館の全体、教育システムをつくっていきたいという思いであります。

以上、説明を終わります。よろしく願いいたします。

○中西委員長 どうも御苦労さまでした。ありがとうございます。

ただいまの教育長に対する御質問のある方おられますでしょうか。

○青山委員 大変すばらしい構想ということで、全国にも例を見ない形を考えられているということなんですけど、このまちじゅうどこでも図書館の件ですが、ピラミッド型で見やすいですが、中央図書館でこれを全部掌握、あるいは個々の問題について吸い上げてきてやられるんでしょうか。そういう中央図書館に司書だけじゃあなかなか難しいなあと思うんですけど、そういう人員配置とか、そういったようなことはどう考えられとんでしょうか。

○松畑教育長 御指摘されとるとおりと考えています。中央図書館で中央図書館そのものだけじゃなくて全体でネットワークを組み、それが指導できるような、先ほど言いましたボランティアの育成をしたいと。平素は中央図書館におるけれど、御近所図書館に何曜日の何時間ぐらいは行って連携を図っていくとか、そういうスケジュールもきちっとつくって綿密な連携をしながら全体のプランニング等を強固にしていきたいと考えております。

○青山委員 これから細部にわたってやっていかれると思うんですけど、その辺の連携を誰がどのようにやるんかということもまたおいおい示していただけたらと思います。

○松畑教育長 ありがとうございます。ぜひ教育委員会と市長部局にございますプロジェクトチームとが本当に密接に連携し、それからできるだけ早い時期に私はこの新しい図書館でいいますと新しい図書館をつくる会を住民主導でつくって、それでどんどん市民の意見を吸い上げ、望ましい、みんなが納得できるような、そういう中央図書館であり、全体の教育システムとしてのまちじゅうどこまでも図書館というものをしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○森本委員 図書館の件で質問させていただきます。

教育長のお話を伺って、壮大な構想だなと思ったんですけども、もちろん御存じだと思うんですけど、瀬戸内市が市民参加で図書館をつくられていったということで、基本的にはそういうイメージを考えていてよろしいでしょうか。

○松畑教育長 おっしゃるとおりで、私も瀬戸内の図書館にはもう10回ぐらいは行っていると思います。前もって市民グループがずうっと2年も3年もかかって作り上げられた経緯もそれに関わった人から聞いております。ですから、そういうイメージを基本的には持っています。ですから、ぜひ早くから市民からもう途中でアンケートをしたり、意見聴取をするぐらいじゃなくて最初から市民の人は責任を持って関わりながら市の職員と一緒にあって、一緒につくるというイメージで、それこそ公民連携の郷土の望ましい形をこの図書館づくりでつくっていきたくは思っております。

○森本委員 教育長が言われたように、確かに司書の方だけでは大変なので、ボランティアの方も必要になってくると思います。その点、2年かけてボランティアの方をしっかりと育成していただくということなんですけど、人的には相当数をボランティア参加していただかないといけないと思うんです。でも、本が好きな方っていう条件的には下げてきたら中には応募される方も本の好きな方はいらっしゃるんで、図書館構想にもしっかり話を関わりたいという方も今までもたくさんいらっしゃるもしていますので、大丈夫かなあとは思ってはいるんですけど、もうち

よっと具体的にお話しただけたらと思うんですけど。

○松畑教育長 おっしゃるとおり、図書館司書あるいは図書館司書補というのがあるようです。それはちゃんと図書館に関する講義で単位をきちんと取って図書館の在り方から図書館の具体的な作品や紹介の仕方その他、いろいろ勉強した上でなっていますから、そこまで何人かは勉強していただいて図書館司書補ぐらいはなっていたきたいと思っていますけども、あまり難しい内容のことを多くの人にお願ひするのは恐縮ですので、それはこの程度の内容についてはぜひこういうところでボランティア活動でお願いしたい、ここまでについてはこういうことでできるような一応勉強と資格を、講座を我々がつくって勉強してもらって、その人たちが担当できるような、そういう人材育成をこれから2年と申しましたが、いつ図書館が新しくできるか知りませんので、例えば2年ぐらいの間に同時に並行的に図書館づくりと並行してそういう講座から人材育成からボランティアのをできたら二、三百人、総合的に言うたら二、三百人のボランティアを育成したいと考えております。

○森本委員 御近所図書館は私設ということで各地区に2館程度と書かれてはいるんですけども、今の段階で大体想定されているようなところがあれば、具体的に分かっていたら教えていただきたいんですけど。

○松畑教育長 具体的な話をするよしあしもあるかと思うんですが、ここは委員会という席で、もし支障があるようでしたら内部の情報として聞いていただきたいと。具体的に進めているのは、片上地区にたまたま教育委員がテッチャン文庫というのをやっておられる、委員の方も一部知っておられるかもしれません。そこはもう1,000冊以上あり、私も見学させてもらい、そこで中心にやられている人の話も聞かせてもらいました。ここはちゃんとしたかなりサークル的にも10人、20人で、今コロナですからあれですが、集まってやれることができるなあというのがあります。例えば具体的にはそういうところをイメージしております。そこは内々にもしこういうのができるのであればそういうことにぜひ活用していただければありがたいというふうな申出を受けております。これは全く内々の話ですので、そこまでで止めさせていただきます。

○森本委員 今回の伊部の天津神社のところみたいにどこかを購入してとか、そういうような大きな話でもないと考えとっていいですか。

○松畑教育長 基本的には、先ほど申し上げた私設を考えています。一つの例として、天津神社の東側の用地という話をさせてもらいました。私は、それがかなうのであればぜひ御近所図書館を中心にして本当に新しい観光の名所というか、新しい文化、本当地域の人が密着の、一流の芸術とかの、備前焼だとかという高度なというたら語弊があるかもしれませんが、本当に一緒に絵を描いたり、音楽を楽しんだり、そういう庶民レベル、密着の新しい文化あるいは観光の拠点に御近所図書館が中心になってやればいいなあという夢を持っていますので、ぜひそういう方向でいきたいと。これは別件とのつながりで申し訳ないんですが、私は個人的には今の伊部天津神社東側団地の土地取得に関しては今申し上げましたような御近所図書館を中心にした文化観光拠点

ということで、市長もそのように同じ趣旨の答弁をしていると思いますので、私はその件に賛成で、ぜひ御近所図書館を一つの大きなものとしてミニ図書館が伊部地区にできればいいなあと考えております。

○西上副委員長 それでは、私はこの備前市まるごと大学校ということで松畑教育長に質問があるんですけども、この真ん中から下のコミュニティ・スクール①というのがあるんですけども、コミュニティとスクールですと学校と地域ということなんでしょうけれども、実際に私も学校評議員は経験していませんけど、備前中学校地域支援員をしております、これまでも学校と地域との連携、つながりはあるんですけども、こういう実績がある中でこのコミュニティ・スクールの必要性というのはどういうことがあるんでしょうか。

○松畑教育長 先ほど申しあげましたように、文部科学省が進めているコミュニティ・スクールで第1号は備前緑陽高校がこの数か月前に新しくコミュニティ・スクールというのを打ち出して始めまして、私も委員の一人になっております。が、小・中学校レベルではそういうコミュニティ・スクールは現在ありません。小中一貫校で例えば伊里学園だとか三石学園とかというような形で進めているところはもちろんありまして、それはすばらしいことだと思うけど、もう少し全体的にコミュニティ・スクールという備前市全体がコミュニティ・スクールであり、さらに各学校がそれに必要なコミュニティと地域とのつながりを伊里学園や三石学園の先例をモデルにしながら、それを乗り越えて全体としてコミュニティ・スクールが前進していく、各校別ではなくて全体としていくようなシステムが絶対必要であるということでこの1番目のコミュニティ・スクールというものを出して、それ全体がまるごと大学校の大きな部分を占めるということでございます。

○西上副委員長 コミュニティ・スクールが大きな部分を占めるということですから、単刀直入にずばりメリットは何でしょうか。

○松畑教育長 今ちょっとだけ話をさせてもらいましたが、日本人の自尊感情というのは非常に国際的なレベルが低いんですね。自分が大切であるとか、自分は長所があっていいところがあるんだという自尊感情、自己肯定感、自己有用感が非常に低い面がある。これは一般論であり、その大きなものはあまりにも学校と地域、備前市がどうこうではなく日本全体での話ですが、非常に地域とのつながりが弱いと。地域の中で自分の居場所が役に立つ、自分もここで役に立つことができている大切な存在なんだという意識が弱いんですよ、一般論ですけどね。この意識は学校と地域がいろいろな活動を通して、今はコロナ禍で運動会もなかなかできない、何もできない、スポーツもできないというんで、これがだんだん平常化したら大変なことになるので、私はコミュニケーションの問題も言いましたし、学校が今大きな危機にあると。というのは、個別にどんどんeラーニングもさることながらリモートでオンライン学習をどんどんどんどん進めて個人でやるので済むのであれば学校は要らないということになりかねないと。学校は共通してみんなで遊び合い、学び合い、本当よかったねえ、こんなことがあったんよ、家でこんなことあったん

よというような話が、地域でこういうことをやっとならんと。それから、三石中学校のソフトテニスの話もさせてもらいました。そういういろいろな地域とのつながりがまだまだ私は弱い。それは地域によって違います。温度差はかなりあると思いますが、全体としてそれを見渡してこの地域学校共同本部が地域と学校をつなぐにつくっていけばこの自己肯定感も必ず上がっていくと。だから、それが結果的に学力にもつながると確信しています。

○立川委員 1点確認なんですけど、図書館のほうで御近所図書館ということで展開しますよと。施設管理は多分私設なんだろうけど、知らん顔というたら語弊がありますが、もうお口もお金も出しませんよということだと思んですけど、反対に蔵書管理、例えばセクションごとの蔵書であったり、それからそこで読んでいて落丁や汚損の管理もあるでしょうし、こういったところで公設で何か手当しようとか、そういったプランは何か考えておられるんでしょうか。

○松畑教育長 御指摘ありがとうございます。正直に言いまして、まだ細かくは考えておりません。けれども、非常に重要なことだと思います。それぞれのところでそれぞれ本が眠って、地域の人は知っているけれども、それがみんなに供されることができないというのはお互いの宝の持ち腐れでありますので、それを管理して中央図書館にこういう本がある、A御近所図書館はこういうものがある、おうち文庫までは難しいでしょうけど、少なくとも御近所図書館までは蔵書管理をしてお互いに貸し借りもできるような、そういうシステムをぜひつくっていくようにしたいと。蔵書管理の方法をこれから具体的に検討してまいります。ありがとうございます。

○青山委員 備前市まるごと大学校の構想なんですけど、私も学びのまち備前とか以前は言っていて、学びということになるとどうしても学校というふうなことを皆さん意識して学校の教育はどうかという話になるんですけど、大人が子供たちに対して与える影響というのは大きいと思えますし、大人が生き生きと誇りを持って生活するというのは大切なことだと思いますので、こういう発想、これからそういう大人も子供も含めての人づくりということでもいいんじゃないかなと思うんですけど、ここでまちづくり会議が地域学校共同本部とありますけど、まちづくり会議にどういうことを期待されますか。

○松畑教育長 正直申し上げまして、これを構想した途中でまちづくり会議というのがあるんだというのを知りまして、もう既に1か月半か2か月ぐらい前の話ではありますけれども、それならこれを活用しない手はないなと。また、新しいものをつくっていくというのは問題があるので、既設のものをうまく生かして、まだ2つの支部はどうか、地区にはできていないんですけども、これを契機にして私は何らかの形でつくっていただいて、そこで全部大学校的なものも、できたら図書館も可能な範囲で役割分担その他してもらって、ぜひそういう人からも図書館でいいますと図書館をつくる会のメンバーにもできるだけ地区から出してもらって地域づくりの拠点として大学校及び図書館があるというふうなイメージにしたいと。ですから、ぜひまちづくり会議はこれから具体的に今までやられているものどうとどう整合あるいは調整しながらやっていくのかというのはこれから具体的に検討してまいりますので、また何かアイデアがありましたら御

示唆をよろしく願います。

○**青山委員** そういうことで、今ある組織といいますか、働きをより生かしていただくということで。これ職員が五、六名地区担当ということで加わっております。それから、以前にもまちづくり会議についてはもう少し組織のメンバーの編制であるとか、あるいはどういったようなことをその中で話し合うことが望ましいかとか、職員の方にも、あるいは市のほうで指導していただきたいというふうなことも申したんですけど、ぜひこういうことも含めてまちづくり会議の在り方についてもお考えいただけたらと思います。

○**松畑教育長** ありがとうございます。青山委員から1か月ぐらい前にたしかまちづくり会議のことはお聞きしたんだと思っています。それから、内々に調べてみました。確かにこのAという町にはこの職員が担当するというふうにして割当ててのがあります。最近では片上地区の観光地図、マップのようなのができていますよね。それはまちづくり会議の一つの成果として、あれは10万円ぐらいの補助でしたかね。たしかその程度の補助が出ているように聞いておりますが、それと、また非常に青山委員及びほかの方々もこういうふうにしたらというのをぜひお聞きしながら、本当にまちづくり会議も前進するし、まるごと大学校及び図書館も前進し、本当に共創というような、共に創る共創をして連携協働していくことができたらと思いますので、またいろいろと御指導をよろしく願います。

○**中西委員長** 所管事務調査ですので、他の案件についても結構ですし、また教育長のお話についてもおありでしたら発言を許可いたします。

よろしいですか。

○**青山委員** 障害者スポーツについてももう少しお伺いしたいというように思うんですけど、先ほどの論議の中でもあったんですけど、ニーズ調査を行っておらないで、私が一般質問のときに出示していただいた資料の中で令和元年度の岡山県障害者スポーツ大会出場種目及び出場者数ということで4種目、それからサウンドテーブルテニスの愛好グループということで、これは市民スポーツフェスティバルの参加者ということで、そういう大会とかイベントに参加している人数とか種目とかというのは出ているんですけど、ぜひニーズ調査を行っていただいて、障害者の方がどういったスポーツなりを望まれているかとか、あるいは施設でもいろんなところでやっております。いんべ通園センターではボッチャをやられたりしています。そういうようなところも調査していただいて、今後の進め方を考えていただけたらと思うんですけど、それについてはいかがでしょうか。

○**波多野社会教育課長** 市民無作為調査では不可能かと。どのような状態の方に無作為で当たるか分かりませんが、委員おっしゃられたように福祉施設に通ってらっしゃる方のニーズであればその施設の協力を得られればそれは可能だと思います。ですので、そういった福祉施設を通しての調査であれば検討していきたいと思います。

○**青山委員** この障害者スポーツについて備前市で統括しているような組織、団体とかというの

はあるのでしょうか。

○波多野社会教育課長 私ども社会教育課は、健常者であれ、障害者であれ、全ての方がスポーツに親しむというところで施策を続けておりますが、一般質問で答弁したとおり岡山県の障害者スポーツ大会の取りまとめ、それから今回のパラリンピックの例えば採火であるとか、そういったことは社会福祉課のほうでしております。市民全体のスポーツは私どもですが、実際に障害者の方を引率したり、相談に当たったりというのは社会福祉課ですので、今後障害者のスポーツ行政ということになりますと両課で話し合い、協力しながらといったところではないかと思えます。

○青山委員 ぜひ同じスポーツというような捉え方で連携していただけたらと思えます。

○西上副委員長 中学校の統合問題を振り返ってみますと、三石中、吉永中学校統合準備委員会を立ち上げました。それには計画に従って準備していったにもかかわらず中止を余儀なくされた。このことについてどこが甘かったのか、教育部長の御所見をいただきたいんですけど、いかがでしょうか。

○石原教育部長 いろいろな御意見をいただいてきた大きな問題だというふうにまず認識をしております。その中で、いろいろな考え方、推進的な御意見であったり、そうではない御意見であったりということがいろいろあったとまずは認識をしております。そういったいろいろな皆様方の思いの中で、これはもう今の時点での振り返りになりますと、反省すべきところがあったからこその現状ではなかろうかという捉え方も持っているのが私の所見でございます。その反省に立ち返り、一つ一つ丁寧に振り返りとともにこれから先どういった方向を向いてどのように歩んでいかなければならないのか、これが今最大の使命ではないかと思っております。今年度、今回の定例会の中でもこういった御質問に対しまして市長、それから教育長もそれぞれ答弁申し上げてきているところでございます。その方針の下で私どもとしても丁寧に進んでいかなければならないという思いでございます。

○西上副委員長 反省があったということでありがとうございます。前政権時代はその反省というのがなかなかお聞きできなかったということもありましたので、ぜひその反省を胸に秘めて部長よろしく願いいたします。

○中西委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、これで所管事務調査を終了し、厚生文教委員会を閉会したいと思います。

皆さん、どうも御苦労さまでした。

午後0時26分 閉会